

## 座間のまち歩き

2020年4月24日 南雲 一郎

日時：2019年(令和元年)11月7日(木) 13:30～17:00

参加者：他支部の方も含め12名

講師：浅黄 美彦氏(元座間市都市計画課)

当日は快晴、午後1時半に座間駅集合。最初は、駅近くの「ホシノタニ団地」を訪れ、次いで星谷寺(しょうこくじ)(真言宗大覚寺派、星の谷観音とも称される)、そして15分ほど歩き、「鈴鹿・長宿地区」を散策しました。最後に、龍源院本堂を見学し午後5時前に座間駅に戻りました。

### □「ホシノタニ団地」－駅前の社宅を開かれた共同住宅に改修－

座間駅東側出口のすぐ北隣の線路沿いに、かつては小田急電鉄の社宅だったRC造4～5階建て、4棟の共同住宅が南向きに建っています。駅から徒歩1分ほどという恵まれた位置にある団地です。これらの社宅としての使命を終えた団地建物を改修し、魅力的な住まいと緑に囲まれた開放的な空間へと生まれ変わらせたという「ホシノタニ団地」を訪れました。

かつては駐車スペースとして使われていた隣棟間の空地が、楽しいそうな空間に変身していました。一番南(駅寄り)にある住棟では、1階線路側の3部屋を、子育て支援施設とし、デッキと共に5段ほどの巾の広い木製階段を配置し、アクセスと同時に遊びもできるような設えとしています。その先は原っぱで、芝生と中木を配した遊び場としている。乳母車を押しながら、訪れる方の姿もみられました。

次の住棟は、1階の線路側の2戸の住戸には、洗濯機のある喫茶店が入り、やはり前面に木製デッキと階段を設けています(洗濯機を回す間にコーヒーで一休みができます)。そこから先の住戸には木製デッキと階段を設け、板柵で区画された芝生の専用庭に下りることができます。その南側には、低い板柵で囲われた共同菜園、さらにこの奥(東側)は、中低木や芝生などの緑がみられます。周囲に小路を配し、誰でもが散策を楽しむことができるオープンスペースです。さらに3棟目、4棟目の二つの住棟は、座間市が借り上げ、市営住宅となっています。

座間市では、古くなった市営住宅の建て替えを進めていて、ここの2棟を一時移転先として活用し、計画の推進を図る模様。3棟目は24戸で、10年間。4棟目は16戸で、5年間の借り上げを予定しているとのことのお話です。



写真左：ホシノタニ団地外観 同右：建物南西部、木製デッキと階段(洗濯機のある喫茶店)

### □「湧水の里」で知られた「鈴鹿・長宿地区」－歴史的景観の整備と保存－

この地区は、座間駅から北西に約1.5kmに位置し、海拔は30mほど。区域内の住戸はおよそ200戸で、4つのグループに分かれ、地区の景観維持活動を担っています。

昭和63年に県と座間市が相模川中流域の景観調査により、鈴鹿・長宿地区の屋敷構え、湧水の水路、東側の崖地の広葉樹林などの景観が注目されることとなった。その後、地元で街並み保存活動の取り組みが始まり、街づくり協定書を定め、活動に同意した住民の方が委員会を構成し、街なみ保存を担ってきました。そして、委員会の活動が評価され、国の平成15年度都市景観大賞「美しいまちなみ優秀賞」を受賞しました。

○龍源院の湧水 龍源院の庫裡裏手の崖近くに弁財天があり、その際から湧水がみられる。道路際にはポケットパークがあり、「龍源水ホテル公園」と名付けられている。小さな石橋、木製デッキ、半割丸太のベンチなど設えている。カワニラが生息し、6月には蛍がみられる。ここは、養蚕が盛んだっころの製糸所の跡地であり、動力源として利用された水車のミニチュアが設けられている。

○鈴鹿の湧水 崖際にある民家の敷地からの湧水。隣接する民家の裏手を流れ、各屋敷からの石段が残り、かつては洗い場として活用されて頃がしのばれる。

○番神水湧水 鎌倉幕府に仕えていた鍛冶がこの湧水を使い家業を営み、それにちなんで、番神堂が建てられたという。湧水は西に流れ、細長いポケットパーク（番神水公園）に注ぐ。設置された説明文によれば、この湧水は、養蚕に用いられた簀（えびら）、籠や蚕架の水洗いにも利用されたい。



写真左：ポケットパークにある石の案内標識 同右：地区内の景観整備された道・蓋掛け水路と板塀

#### □最近の動向

4月初めに、現地を訪れました。「ホシノタニ団地」は、COVID-19の影響で、子育て支援施設は閉園、喫茶店は閉店とひっそりしていました。「鈴鹿・長宿地区」は、春先に雨が多かったせいか、澄んだ水の流れはいつもよりは多く、草木は陽光を受けゆったりと揺れていました。しかし、大きな変化がみられました。一つは龍源院の庫裡の前、二人が腕を伸ばしても抱えきれないような太い楠が切株を残し無くなっていました。そして道を挟んだ向かいの旧家は、解体され宅地造成、5つに区画されていました。もうひとつは、「番神水」の湧水の近く、道路沿いの旧宅も解体され、6つの区画に造成されていました。近いうちに、新しい家が建つことと思います。

近隣の景観に配慮した建物ができることを切望しています。



写真上：龍源院本堂 小川三夫棟梁（鶴工舎）

同下：龍源院の楠の大きな切株